



さいとう かずふみ  
**齋藤 和文**  
(公明会)



## 防災・減災対策の現状と課題について

**問** 被災者生活再建支援システムの導入は。

**部長** 平成27年当時導入の検討をしたが導入費用・ランニングコストなどを考慮した上で、一端は導入しないと結論付けている。が、今後は改めて導入の検討を再開すべきと考えている。

**問** 感震ブレーカーの設置費の補助拡充は。

**部長** 今年度は能登半島地震の影響もあり、年度当初から申請が多く、予定の40件に達した。プラス50件増額したがそちらも終了した。

**市長** 当初予算分が終了、追加分も終了。申し込みがあるならば、青天井で全部対応していきたい。一刻を争う問題なのでしっかり行いたい。

## LED防犯灯の今後について

**問** 蛍光灯からLED防犯灯に取り替え推進して10年となる。LEDの寿命が10年と言われ、

交換する時期に来ている。LEDユニット交換に対する補助はあるのか。

**部長** 現在は補助対象になっていない。

**問** 自治会からの要望はあるのか。

**部長** 落雷などの故障で修繕費を補助してもらえないかという要望はあった。

**問** 今後の方向性についてはどうか。

**部長** 平成27年度から自治会が管理する防犯灯をLED防犯灯に取り替える補助金を交付してきた。令和5年度末でLED化率95%を超えている。今後防犯灯の更新事業が増加すると予想されるため、修繕等も含めた補助金の交付内容を関係課と協議していきたい。

**問** 補助金の検討は令和7年度以降か。交換条件はあるのか。

**部長** 令和6年度中にすぐに対応するように市長からの指示があり動いていく。交換条件は特に設けない。

※その他、朝霧さわやかパーキング北側地の観光客による交通支障の危険性を質疑した



いなば こうじ  
**稲葉 晃司**  
(無会派)



## 富士宮市水道事業を問う

**問** 富士宮市水道ビジョンについて伺う。平成28年4月の策定からこれまでの進捗状況と主な事業はどのように推移しているのか。

**部長** 現行の水道ビジョンに示している今後10年間の計画している5つの事業のうち、1つ目の導水管の更新事業（内野取水場～北山浄水場）は平成28年度から令和2年度までの5年間をかけて全長3.2キロメートル全ての耐震管路への更新を完了。2つ目の施設耐震化事業では市内の約80か所の配水池があり、令和5年度末における配水池等の耐震化率は78.6%である。この10年間で耐震化率は25%上昇し、令和7年度末時点の目標値80%は十分に達成できる見通し。3つ目の管路更新事業では水道管路耐震化の進捗率は、本市の主要な基幹

管路約191キロメートルのうち耐震適合性のある管路は約88キロメートルで、令和4年度末における耐震適合率は45.9%であり、法定耐用年数の40年を超えた老朽管割合は令和4年度の時点で19%になる。老朽管の布設替え、耐震管路の更新は毎年計画的に実施しているが、近年は資材の高騰や労務単価上昇の影響などを受け、年間の施工延長実績としては5キロメートル程度になっている。4つ目の水源開発事業は、災害リスク等を踏まえたバックアップ機能の強化策として、複数の水源開発を計画し北山浄水場系統における水源の強化を最優先に行い、令和4年度までに3つの候補地を選定し水量、水質を確認しながら水源開発を行っている。5つ目の設備更新事業では、老朽化した施設設備の更新を計画し、各種点検業務による成果などを基に、ポンプ設備や排水を制御している電気設備など故障した場合に、断水のリスクが高いものを優先して順次設備の更新を行っている。